

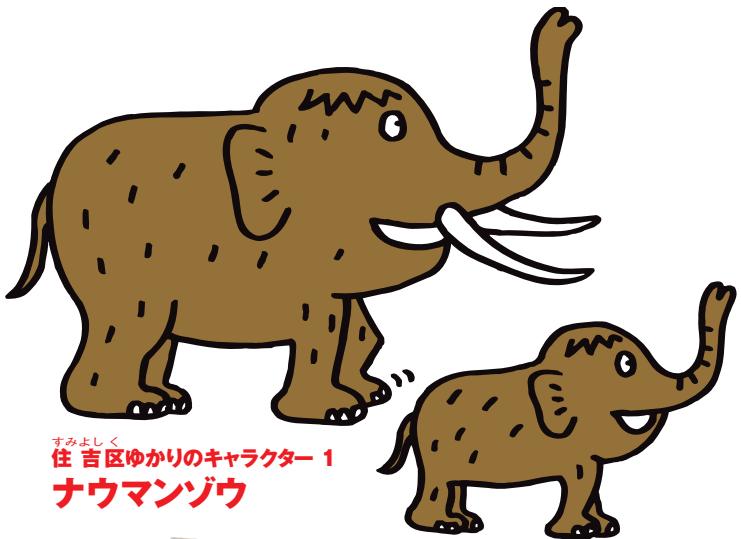
〈原始〉

住吉には、ナウマンゾウがいた

いまから7万年から11万年前、住吉には林や草原が広がり、ナウマンゾウやヤベオオツノジカ・ニホンムカシジカなどの大型動物が群れをなしていました。浅香1丁目の地下4~6mでは、これらの動物たちの足跡がそのまま残されていたのが見つかりました。足跡は川岸や水たまりなどの水場に水を飲みに集まってきたときについたのでしょうか。丸い足跡がナウマンゾウで蹄が二つに分かれているのがシカの足跡です。しかし、これらの動物たちをねらって狩りをしていた人間の痕跡はまだ見つかっていません。

住吉で一番古い人間の痕跡は2万年前の人が作った石の道具のかけらです。浅香1丁目や我孫子東3丁目で出土しています。この頃にもまだナウマンゾウやオオツノジカはいたので、このころの狩人たちちはこれらの動物たちを追い、移動しながら生活していたことでしょう。いろいろな石の道具を使っていましたが、まだ粘土をこねて土器が作られるようになる前のことです。

(足跡化石は我孫子南中学校のアビナン・ミュージアムで展示しています→P16)



すみよし
住吉区ゆかりのキャラクター 1
ナウマンゾウ





大阪市立自然史博物館にあるナウマンゾウの実物大模型
(東住吉区)



約3万年前の旧石器(平野区長原遺跡出土)



ナウマンゾウって、どんな象?

ナウマンゾウは約35万年前に日本列島に現れて、約1万7千年前に絶滅したといわれています。山之内にナウマンゾウの群れが最初に現れた約11万年前は、気候がしだいに寒くなりはじめたころで、約7万年前からヴィルム氷期といわれるひじょうに寒い時代が続きます。ゾウやシカは、極寒の時代を生き抜くための重要な食料だったと思われます。

アビナン・ミュージアムと
大阪市立自然史博物館

